

ガラ紡績の水車と工場



岡崎市桜井寺町のガラ紡績工場の水車

愛知県岡崎市の東部、乙川、男川の清流はゲンジボタル里として知られてる。この清流を利用して、かつてはガラ紡績用の水車がまわっていた。

岡崎市桜井寺町の故鈴木賢治さん宅に保存されている水車は、県内では最大のガラ紡績用水車である。愛知の産業遺跡・遺物調査保存研究会（中部産業遺産研究会の前身）の調査によれば、直径6.4メートル、幅1.03メートルの木製在来型水車である。水車の材料は、長持ちするように、輪板に松の赤身、その他はすべて檜の天然木の赤身のみを使用し、桜井寺

町桜形の水車大工につくらせたものという。この水車は男川の支流、下衣文川の水を引き入れて、回し、出力は約20馬力あると言われている。この水車でガラ紡績機8台と撚糸機、合糸機などの機械を運転、昭和50年頃まで使われた。

乙川上流、岡崎市須渕町にある石田善久ガラ紡績工場は、岡崎市内では現存する唯一のガラ紡績工場である。この工場にも昔は水車があったと言われるが、現在は電動機で機械を動かしている。



石田善久ガラ紡績工場（岡崎市須渕町） 左は撚糸機、右はガラ紡績機